

1 事業総括

入所実績は年度目標の100世帯に対し88世帯と、平成27年度91世帯と比較し若干減少し、目標に対する入所率は88.0%であった。平均在所期間は3.2カ月であった。

建物は改築後18年を経過し、平成29年2月には全居室の給湯器交換工事を終えた。居室のエアコンや水道設備も交換や修繕が必要な箇所が出ており、今後、計画的な修繕等について検討を行っていく必要がある。

入所原因では、88世帯中、DVによる避難が24世帯(27.3%)と最も多く、次いで立ち退きが19世帯(21.6%)を占めた。また、入所の世帯属性では女性単身者の割合が多く、42世帯と全体の47.7%を占めた。次いで、母子世帯が35世帯(39.8%)となっている。

利用者の傾向として、平成27年度に比べ、乳幼児や学齢期の子を持つ母子世帯の割合が増加し、高齢者の入所が減少したことで、利用者の平均年齢は低くなっている。また、単身者は精神疾患を抱えている割合が多く、必要に応じ医療機関や施設内のカウンセラー等と連携しながら支援を行った。乳幼児・学童期の子どもがいる世帯でDV被害や養育の見守り等で配慮が必要な世帯については、学校や警察、子育て支援機関等と連携を強化しながら対応を行った。

施設行事は、利用者の実態に即して、大人も子どもも参加できるよう工夫しながら実施した。施設行事に退所したOBが参加することで、行事が活性化し、在籍利用者にとっても退所後に立ち寄る場所として認識され、安心感を与えている。

緊急一時保護事業の利用期間の中で、多様な課題を抱える世帯が、地域での生活に円滑に移行できるよう、引き続き利用者の支援向上に取り組んでいきたい。

〔利用実績〕

(単位:世帯)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所世帯数	88	9	6	10	8	5	8	8	7	10	6	7	4
退所世帯数	91	9	7	8	7	9	9	8	10	8	2	5	9
月末在籍世帯数	平均 24.5	26	25	27	27	24	23	23	20	22	26	28	23
27年度	平均 26.5	27	27	23	26	26	30	25	28	28	28	24	26

〔退所理由〕

(単位:世帯)

	自 活	転 居	居 宅 移 管	入 院 除 籍	移 管 福 祉 施 設	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居 婦 郷 ・ 親 族	拘 留 除 籍	死 亡	そ の 他	合 計
28年度	4	1	69	0	4	4	1	0	7	0	0	1	91
27年度	2	0	74	1	4	1	1	0	5	1	0	2	91

2 主要目標に対する成果

(1) 安心・安全な施設運営

職員同士での情報共有や管理人・併設施設との連携により利用者が安心して生活できる環境作りを行い、利用者アンケートでは95%の利用者から安心して生活できるとの回答を得た。

(2) 利用者の傾向をふまえた個別支援の実施

入所時に適切に利用者の状況把握を行い、施設内でのカウンセリングや専門相談、こども支援センターや学校、警察、医療機関等の社会資源を活用しながら支援を行った。

(3) 行事を活用した利用者支援の実施

幅広い利用者層が参加できるよう行事を実施・企画した。また、退所したOBも参加できるよう工夫し、退所後のアフターフォローの場所作りを行った。

(4) 利用者支援の手引きの活用による適切なアセスメント及び支援の実施

利用者支援の手引きの活用のほか、これまで施設で蓄積したノウハウや地域での社会資源の活用について再確認し、施設マニュアルを作成した。

3 運営管理	
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安否確認は、日々のマグネットにより行うほか、高齢者や乳幼児がいる世帯へは週2回定期訪問を行い、健康・生活状態を把握し、利用者が安心して生活できる施設作りに努めた。 ・増加している母子世帯の中で、産後間もない乳児がいる世帯の入所について、区のこども支援センター、養育支援係の保健師やNPOと連携しながら、子どもの養育支援や安全確認を行った。 ・年度後半で増加した日本語での会話が難しい外国籍の利用者に対して、他言語相談を活用したほか、区内の日本語ボランティアへ繋げ、日本語習得の為の支援を行った。平成29年度以降、施設で検討する支援マニュアルの項目に新たに外国籍の利用者を加えることとした。 ・運営管理及び利用者支援に関わる施設マニュアルの作成に取り組み、これまでのノウハウの確認、地域社会資源の情報共有を行い、支援のあり方について検討・再確認を行った。 ・各行事は年間事業計画に基づき実施した。平成28年度から実施した大人向けのぬり絵会にはOBを含め年間延べ55人が参加し、退所した利用者の交流の場ともなっている。 ・管理人を含め、震災及び夜間想定訓練を年間4回行った。職員1人が上級救命講習を受講した。 ・研修については全職員が参加し、会議等において情報共有をする事で利用者支援の向上に努めた。 	
4 保健衛生・環境整備	
<ul style="list-style-type: none"> ・健康・栄養相談は延べ77世帯の世帯が利用し、入所後間もない利用者の健康状態の把握を行い、必要に応じ医療機関へ繋げるよう努めた。 ・入所後間もなく不安を抱える利用者、DV被害者、発達に不安がある児童等を対象に月2回カウンセリングを実施し、心身の安定に努めた。(相談件数：延べ57世帯) ・防虫消毒(年2回)や貯水槽清掃(年1回)を年間事業計画に基づき実施した。 ・居室のエアコンは年間で10室の交換工事を実施した。平成11年改築当初からのエアコンを使用している居室が10室残っており、平成29年度以降、交換を検討していく。 	
5 施設の社会化(地域交流事業及び施設機能強化推進事業)	
<ul style="list-style-type: none"> ・併設されている住区センターと合同で実施した秋祭り(住区祭り)は地域住民、利用者、ボランティア等総勢750人が参加し、天候にも恵まれ盛大に開催することができた。 ・施設見学会の実施にあたり、施設の案内パンフレットを作成し、23区内の全福祉事務所へ配布した。11月に2回実施した施設見学会は23区内の福祉事務所のケースワーカー・相談員等33人の参加があり、施設を周知する良い機会となった。 ・学習ボランティアによる子ども学習会を毎週火曜日に実施し、年間延べ140人が参加した。(利用者83人、OB57人) 	
6 福祉サービス第三者評価 評価結果	
評価機関：特定非営利法人 NPO サービス評価機構 実施期間：H28.7.1～H28.11.18	
全体の講評： 特に良いと思う点 ① 施設独自の臨床心理士によるカウンセリングや「子供学習会」など、利用者の特性に応じたきめ細やかな支援を行なっている ② 「塗り絵会」や自分の体験を語り合うミーティングなどに退所したOBも参加し、退所後のアフターフォローも行っている ③ 利用者の意向を把握し、利用者にとって生活しやすい場所となるよう改善を図っている。	施設コメント： 施設独自で実施している行事やOBのアフターフォローが評価機関から高く評価された。利用者アンケートの結果では8割以上の利用者から満足との概ね良好な結果を得た。 改善が望まれる点①についてはアセスメントシートがより支援に活用できるものとなるよう、改善を行っていく。②、③についても利用者の現状を踏まえ、検討を行っていききたい。
さらなる改善が望まれる点 ① 利用者のニーズ・課題を把握できるようアセスメントシートの改善を期待したい ② 子どもや高齢者向けの行事は好評であるが、若い母親向けの余暇活動の企画の充実を期待したい ③ ヒヤリハット報告書の作成、その活用により一層の取り組みを期待したい	

